



人間の深々とした情感に結実していく、 ザラフィアンツならではの感性!

エフゲニー・ザラフィアンツが、来日20周年を迎える。顧みれば、最初に出会ったのは2004年3月だった。浜離宮朝日ホールでのリサイタルを、直後の6月に控えてのインタビューであったが、来日してもっとも大きな演奏会だと意気込んでいたのを思い出す。プログラムはブラームス、リスト、ラフマニノフ、グラスノフ、各々についてゆったりと、しかし真っ直ぐこちらの眼を見て語る姿は今も心に刻まれている。それからというもの、リサイタルや室内楽、またCDリリースなど、ザラフィアンツの多彩で意欲的、アクティブな活動は周知の通り。

ノヴォシビルスクに生まれたザラフィアンツは、当初ソヴィエト政権下で不当な迫害を受け、演奏活動を制限された。けれども地道な活動とコンクールなどでの実績が高く評価され、ようやく陽の目をみるようになったのは30歳がもう目前であった。とは言えザラフィアンツの師弟関係を辿ると、ゴリデンヴェイゼルやネイカウス、イグムノフといった世界的な巨人たちに行き着く。つまりザラフィアンツの根幹は、世界に冠たるロシアン・ピアノリズムの潮流によって培われてきたのである。

それを標榜するかのように、ザラフィアンツのレパートリーの軸は古典派からロマン派にある。ラフマニノフ、スクリャービンなどのロシアものはもちろん、J.S.バッハ、モーツァルト、ベートーヴェン、シューベルト、ショパン、シューマン、リスト、ブラームス…。彼らの音楽にザラフィアンツが真摯に対峙する時、ザラフィアンツにしか表現できない独特の感性が生まれる。それは芳醇な抒情性であり、気品であり、鮮やかな色彩の移ろいであり、透明感を含んだ空気感であり、そのすべてが人間の深々とした情感に結実していく。

今回の記念リサイタルで演奏されるのは、ザラフィアンツが愛してやまない作曲家の格別な個性を有する名曲たち。ザラフィアンツがどんなアプローチを見せるのか、今から楽しみでならない。
(音楽評論家 真嶋雄大)

エフゲニー・ザラフィアンツ プロフィール

1959年ロシア共和国のノヴォシビルスクに生まれる。音楽家の両親のもとで育ち、6歳からピアノを父に学び、8歳からはモスクワ音楽院附属中央音楽学校でエレーナ・ホヴェンに師事、幼少より天才的な才能を発揮し、1975年以降グネーシン音楽学校・オルスク音楽院・グリムカ音楽院・大学院とすべて首席で卒業。この間、全ロシアコンクール・ラフマニノフコンクールなどで入賞。その後、1993年ポゴレリッチ国際コンクール（アメリカのカリフォルニア州パサデナ）で第2位となった以降、ドイツや日本を中心に演奏活動を行っている。日本には1997年秋以来、度々来日し、東京をはじめ全国各地でコンサートや公開講座を開催している。2004年ロシア・フィルハーモニー交響楽団（アレクサンドル・ヴェデルニコフ指揮）と、チャイコフスキー：ピアノ協奏曲第1番を共演する。2005年チェコ・プラハ管弦楽団（武藤英明指揮）とベートーヴェン：ピアノ協奏曲第3番を共演。また、2006年ザグレブ・フィルハーモニー交響楽団（ヨハネス・ヴィルトナー指揮）とラフマニノフ：ピアノ協奏曲第2番を共演、また室内楽の分野でも力量を発揮し、2007年ザグレブ弦楽四重奏団とシューマン、ブラームスのピアノ五重奏を演奏し絶賛を博した。2007年には来日10周年記念イベントとして東京紀尾井ホールにてリサイタル、スーパー・ワールド・オーケストラとベートーヴェン：ピアノ協奏曲第3番をはじめ、各地で公演し益々巨匠性を発揮し続けている。最近の特筆すべき演奏は、2011年12月東京文化会館でのリサイタル（リストイヤーにちなんで）2012年、2013年、神戸朝日ホールでのリサイタルおよび、チェコ・フィルハーモニー・ソリストとの津田ホールで開催されたブラームス：ピアノ五重奏の共演と、2014年5月のゴラン・コンチャル（ヴァイオリン）と共演した五反田音楽ホールと松本音楽ホールにおける公演で、さらにザラフィアンツの深く幻想的な音の世界が絶賛され「稀に見るピアノの詩人」との誉れ高い。レコーディングも活発に行っており、日本ではALMレコード（コジマ録音）より19枚のCDをリリース。毎回、レコード芸術（月刊誌）では特選盤をはじめ、高い評価を受けている。さらに、ナクソス（NAXOS）からも3枚のCDをリリースし、特にスクリャービン前奏曲全集の中の「前奏曲第1集」は、イギリス・グラモフォン誌の月間ベスト10に選ばれるなど、常に注目を浴びている。2005年音楽の友での21世紀の名演奏家事典にて、世界の注目されるピアニスト70人に入るなど、ザラフィアンツの聴衆の魂を揺さぶる精神性の高い演奏とレパートリーの広さで、毎回大きな感動を与え、熱烈なファンを増やし続けている。

2015年4月より、愛知県立芸術大学のピアノ科客員教授に就任。多岐にわたり、精力的な活動を展開している。



Evgeny Zarafiants